

インターバンクの声（2016年9月28日）

昨日の東京時間の午前中、米大統領選候補者ヒラリー・クリントン、ドナルド・トランプ両氏のテレビ討論会を見た方も多かったのでは。社内でもテレビ中継を流したままにしていたが、特段ヒラリー氏を最目に見ている訳ではないが、同僚たちも昨日の討論では明らかにヒラリー氏が優勢だったと受け止めていた。帰宅してから見たテレビでも、討論会はヒラリー氏が優勢だったとの報道がほとんどだったが、日中に話す機会のあった数人の外国人はトランプ氏が優勢に話を進めていた場面もあったと評価したのを聞いた時は少々驚いた。そうした受け止め方もあるのかと理解出来れば、トランプ氏が優勢だったとの結果を報じた世論調査があったことも納得できる。東京市場が討論会でヒラリー氏優勢と受け止めたことで円売り・ドル買いになっていたことを全て納得できるわけではないが、取り敢えず米大統領選挙に関しては、ヒラリー氏の優勢・勝利がドル高・円安になるとの図式が確認出来たかも知れない。それでも昨夜の海外市場では、欧州銀行の経営不安説や独自動車会社への罰金を巡る懸念が安全資産の円買いを誘うなど、足元の市場では円買いになるリスクが数多く見受けられる。8月にも何回か見ている99円台の円相場だが、今度はいったん99円台に差し込むと100円台に戻すには時間が掛るような気もする。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。